



葛神社本殿（右奥）＝宇陀市榛原で



葛神社 (宇陀市)



宇陀市と奈良市の境に
円すい形をした大和富士

九頭竜神祭る 磐座鎮座

とも呼ばれる額井岳がそびえています。その東側の戒場山から発する宮川の右岸の高台に葛神社は祭られています。

創建は定かではありません。伝によると、第11代垂仁天皇の時代に豊鍬入姫命と倭姫命は天照大神に変わると伝わっています。伊勢にたどり着く前に倭姫命が「菟田の篠幡」を訪ね、後に三元伊勢と呼ばれる篠畑神社が設けられました。

同神社近くの摂社（現・葛神社）に豊鍬入姫命と倭姫命が祭られたとき、切り妻屋根で棟と直角な面に入口がある様式で、本殿は一間社春日造（正面の柱間が一つで、に収穫された小麦でついた餅が配られます。硬い餅をいただき、歯を通して健康を祈願します。）

（奈良まほろばソムリエの会会員 東辻裕子）

（住所）宇陀市榛原山辺三1145

の1

三丁目「行きバス終点下車 徒歩約15分」

（祭神）天照大神

（拝観）境内自由

（交通）近鉄榛原駅から「天満台東」

（駐車場）なし（電話）なし

命と倭姫命は天照大神に変わると伝わっています。伊勢にたどり着く前に倭姫命が「菟田の篠幡」を訪ね、後に三元伊勢と呼ばれる篠畑神社が設けられました。

江戸後期の文化年間に未曽有の豪雨による土石流で社殿が流され、その後、現在の場所に建立されました。

7月初旬の日曜日に固め祭という珍しい行事が行われます。この時期に収穫された小麦でついた餅が配られます。硬い餅をいただき、歯を通して健康を祈願します。）